

☒ 話すこと ☒ 書くこと☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実
☒ パフォーマンステストでの活用☒ 授業での活用
☐ 課外活動での活用☒ 家庭学習での活用実践の
ポイント

言語活動(特に発信力)の充実のためのAI活用

～授業内の発話量・作文量増加、人とのコミュニケーション活動へ接続する段階的指導、習熟度に応じた学習～

実証概要

<校数> 高等学校:5校 <人数> 高等学校:681人 <学年> 高等学校:第1・2学年

<アプリ等> GELP(株式会社ベネッセコーポレーション)、LANGX(株式会社エキュメノポリス)

<AI機能について>

「GELP」・AIとのやりとり(話すこと)、個別学習プログラム(課題配信)、ライティング添削(即時フィードバック)、音読評価など
「LANGX」・話すことのアセスメント(CEFR判定等)、分析など

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

●AIの活用により、個別かつ即時の対応が可能になり、発話量や作文量が増加

- ・常活動としてのスピーキング活動がAI相手に活発にできた
- ・話したり書いたりした英文に対し、瞬時にAIが応答したり、評価・添削したりする個別即時フィードバックが可能になった
- ・発話を録音しAIが文字化したものを記録として保存し、見直し・改善につなげた
- ・即興の自己表現活動やパフォーマンステストの事前発話練習において、AI相手に練習することで心理的ハードルが下がり発話量が増加した
- ・話したり書いたりしたものに対してAIは言語面(語彙・文法・語法等)に関する指摘や修正が即時にでき、教員の負担減にもつながった

●AI時代の教師の役割

- ・生徒にどんな力をつけさせたいかを明確にし、AIの効果的な活用場面を組み込んだ**単元全体を設計**
- ・AIは言語面の修正に優れているので、教員は**内容面や構成面、プロセスの指導**に注力
- ・生徒が自分事として捉えられる**テーマや内容の設定**、教師や地域の**個性や特徴**を活かした指導

実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

①児童生徒の英語力の変化

- ・AIの活用頻度の高い学校では、「話すこと」「書くこと」の伸びが大きい(CEFR:A2～B1レベルの割合)
 - 高1話す 9.5% ⇒ 40.2%
 - 高1書く 9.5% ⇒ 23.3%
- (成果検証アンケートより)

②児童生徒の関心・意欲の変化

- ・AIのフィードバックにより生徒の学習に関する意識が向上した(教師の見取り)
 - 学習意欲の向上 11.8% ⇒ 40%
 - 自信の向上 5.9% ⇒ 40%
 - 自己表現意欲の向上 11.8% ⇒ 40%
- (成果検証アンケートより)

③教師の指導の変化

- ・生徒の英語による言語活動の増加
 - 授業の75%以上活動 0% ⇒ 6.7%
 - 授業の50%～74%活動 23.5% ⇒ 40%
- (成果検証アンケートより)

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

●活用リーダーのスキルアップと実践成果の普及のため、全校で公開授業実施、県高等学校英語研究会と連携

- ・活用リーダーのスキルアップのため、有識者を交えて個別協議、先進校視察、公開授業を実施した。モデル校5校の公開授業には高校だけでなく小学校・中学校・特別支援学校・大学も含む延べ95名の教員が参加した。
- ・実践成果の普及のため、島根県高等学校英語研究大会において、モデル校の大社高校・浜田高校が取組について実践報告を行った。あわせて本事業アドバイザー 國學院大学 豊嶋正貴先生による講演、生成AIを活用した師範授業を実施し、県内英語教員73名が参加した。また年度末発行の機関紙にはAI活用の特集を組み、活用リーダーも寄稿。県内英語教員全員に配布された。

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

●成果: AI活用についてモデル校だけでなく、他校にも拡大

成果 今年度、本事業モデル校ではGELP、Gemini、ChatGPTの活用、他校ではGemini、ChatGPT、World ClassroomなどAIを活用した授業が多く展開され、学校を超えてプロンプトの共有等も行われた。特に「論理・表現」のディベートやディスカッションに向けた段階的な指導において、「話すこと」「書くこと」の伴走者としてのAI活用は今後の指導の可能性を広げた。

課題 AIの特性を踏まえた効果的な活用方法や、プロンプト設計、評価との接続についての取組内容に学校間・教員間で差がある。AI活用を一過性の取組にとどめず、単元計画に落とし込むとともに、自律的かつ継続的な学習習慣として定着させる必要がある。

今後の取組 AI活用を効果的に組み込む年間計画・単元計画の作成、汎用型AIのプロンプト研究など